

関生支部弾圧報告

20190128 弁護士 太田 健 義

第1 一連の弾圧の概要

1 第1弾（滋賀）

2018年 7月18日 強要未遂 事業者4人逮捕・勾留
8月 9日 同上 事業者2人、組合員1人
8月28日 同上 組合員3人（委員長含む）

最初の逮捕・勾留から勾留満期になると別の逮捕・勾留を繰り返す

2 第2弾（大阪）

2018年 9月18日 強要未遂・威力業務妨害 組合員16人
10月 9日 暴行・威力業務妨害 組合員8人

滋賀で、逮捕・勾留が繰り返されていたことから、大阪でも予想していたら同様の事態に

3 第3弾（大阪）

2018年11月21日 威力業務妨害 組合員4名（委員長再逮捕）

4 第4弾（滋賀）

2018年11月27日 威力業務妨害 事業者1人、組合員7人（3人再逮捕）

5 第5弾（滋賀、予定）

2019年 2月か3月 強要未遂か威力業務妨害 組合員4人？（委員長含む）

6 その他

京都府警からも組合員が何度も事情調書のために呼び出しを受ける。

第2 異様な捜査

1 事案はいずれもずっと以前のもの

第1弾の事案は2017年3月から7月、第4弾は同年2月から3月にかけてのものであり、第2弾及び第3弾は、同年12月上旬の事案に関してである。

すでに予定されている第5弾は、やはり2017年3月頃の事案と確認している。事案から9ヶ月以上が経ってから、逮捕・勾留・起訴が繰り返されている。

2 広範囲かつ大量の捜索押収

2018年1月以降、100箇所以上で捜索がされ、大量の書類、資料、映像等が押収された。おそらく数千点を超えており、あまりにも広範囲かつ大量なため、弁護団でも把握できていない。

3 追起訴と管轄の問題

第1弾の4人の内の委員長以外の3人は、第4弾でも追起訴。

委員長は、第1弾に加えて、第3弾で追起訴。そのため、滋賀と大阪で事件が係属。

4 あまりにも遅い追起訴

第1弾の3人は、3ヶ月も経ってから第4弾で追起訴。

委員長と第4弾の内3人は、今年の3月頃に追起訴予定とされているが、委員長は第1弾から6ヶ月、それ以外の組合員も3ヶ月も経ってから起訴されることになる。

5 不当な蒸し返し

第4弾の組合員が追起訴される内容は、第1弾で起訴事実として記載されている施工現場でのコンプラ活動。しかし、すでに第1弾の刑事裁判は進行しており、施工現場の相手方担当者の証人尋問も順次終了している。なぜ、第1弾と一緒に事件出来なかった（しなかった）のか。

6 事前の警察対応が罪証隠滅のおそれの理由に

保釈請求に対する検察官の意見書で、ライン履歴消去アプリをインストールしていることや「弾圧に備えるために」という対警察マニュアルが存在していることが、罪証隠滅のおそれの理由とされている。

第3 共謀罪の先取りか？

1 事前の広範な探知収集型の捜査

逮捕・勾留よりもかなり前に、大規模な捜索を行い、大量の資料を片っ端から押収して、分析。議事録などの紙媒体だけでなく、スマホのライン・メールやUSBなどが中心。音声録音も収集。現に、第3事件では、起訴された組合員が押収された録音音声を聞かされている。

2 第1弾の事件及び第3弾の事件では「共謀者」のみが起訴されている

第1弾の事件では、施工現場でコンプラ活動を行った組合員は逮捕されることなく、委員長以下の役職者が、逮捕起訴されている。

第3弾の事件では、現場に行った組合員は第2弾で起訴されたが、現場に行っていない委員長以下の役職者は、同時には逮捕されずに、時間をずらして起訴されている。

これらの事案については、現場での実行行為が立証できなくても、大量に収集した資料から、共謀を立証しようとしていることが伺える。

第4 今後の展開

1 小さな希望と相変わらずの絶望

第2弾の弾圧では、8名の組合員が黙秘のまま起訴されたが、全員、起訴直後に保釈。黙秘で、組合という組織としての事件とされ、「被害者」がいて「被害者」も特定されている事件としては、起訴直後の保釈は異例と言える。

一方で、第3弾では、共謀しかしていない委員長以下の3名の保釈は認められていない。また、滋賀の事件では、誰1人として保釈されていない。しかし、このような不当な扱いは、今回に限ったことではなく、いわゆる人質司法としてはこれまで普通に行われてきたことである。

2 これからについて

第1, 5のとおり、滋賀では新たな起訴があることが確実である（何名かは不明）。また第1, 6のとおり、京都府警の動きもある。

弁護団としては、今後、さらなる不当な身体拘束をさせないこと、起訴された事件については無罪判決を得ること、に最大限の努力を行う予定である。

ここで萎縮してしまえば、警察権力を含めて、クラッシャー側の思うつぼなので、最大限の注意を払いながらも、萎縮しないことこそが重要である。

以上